

荏原、点検効率化後押し

産業界で労働人口の減少や技能継承などの問題が深刻さを増す中、荏原が工場などの現場の省人化や効率化を進める商品・サービスの展開を進めている。同社の建築・産業カンパニーでは点検代替、予知保全を行えるサービス「EBARAメンテナンスクラウド」を提供し、企業の現場効率化を後押ししている。同サービスの利便性を訴求し、好調な同カンパニーの成長加速につなげる。

（松井美濃生）

荏原の建築・産業カンパニーは建築設備（住宅・オフィスにおける給排水設備など）や産業設備（半導体・食品などの工場での生産プロセス設備・生産装置などに使われるポンプ・冷熱機器設備）を手がける。

「顧客視点でポンプ・スクラウドを2022

運転データ監視、予知保全

年に投入した。運転データを24時間遠隔監視し、運転不調を故障停止前に把握でき、設備管理の低コスト化や省人化を実現する。

同サービスでは自社開発の振動・温度センサー「QiDe（キーデー）」による状態監視に加え、センサー入力ユニット「QiDe-ii」により電流値や吐出圧力、水位などの状態、漏水・故障警報などの異常に対しても常時監視を行い、点検



振動・温度センサー「QiDe」

サブスクで導入コスト低減

業務の負担を軽減する。キーデーはサブスクリプション（定額制）によるセンサー1個単位の料金体系で月額1個当たり約1000円のため、導入コストも低く抑えられる。商業ビルや鉄道関連施設、食品・飲料、半導体・電子、自動車関連などの工場での活用が見込め、25年度の目標センサー設置数1万個に対してすでに6割を達成し、設置数を着実に伸ばしている。

同サービスを導入した京王電鉄では、「点検頻度を減らせたことで業務負担が軽くなった。今後も活用を幅を広げたい」（担当者）と導入の手応えを示す。

荏原の建築・産業カンパニーの売上高は24年度が前年度比7・2%増の2381億円、25年度は2500億円を計画。同サービスの導入企業増加に加え、アフターサービスの強化など顧客との継続的な関係構築により、一層の事業拡大を目指す。

今後も「顧客との対話を通じて、真に必要とされている製品・サービスの展開を強化する」（永田修執行役）方針だ。